

道徳科 学習指導案

平成30年6月9日（土）学習指導Ⅲ （5の2教室）2年1組 指導者

I 主 題 きまりをまもるのは

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

自分勝手な行動をせずに、きまりを守って生活しようとする態度

①知識・技能

一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての理解

②思考力・判断力・表現力等

一人一人がきまりを守って生活することについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 主として集団や社会との関わりに関すること

12 規則の尊重〔第1学年及び第2学年〕

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「規則の尊重」の内容項目のうち、一人一人がきまりを守って生活することの大切さについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

きまりは、集団生活の中で皆が守るべき約束事として存在している。集団生活においては、きまりを守って生活することが大切である。そうすることで、集団に所属する他者の権利を尊重するだけでなく、自分自身の権利を保障することにもなり、それが集団の維持発展につながるからである。しかし、自らの利益や欲望を優先し、1人でもきまりを守らないことがあれば、きまりがあることの意味が薄れ、他者の権利を脅かしたり、集団の維持発展が難しくなったりする。このことから、集団に所属する一人一人が、きまりを守って生活しようとする態度を身に付けていくことが大切となる。

子どもたちは、家族という小集団から友人、学校、社会へと徐々に集団を広げている。その中で、きまりは守るべきものとして身近に存在し、子どもたちはきまりを守って生活しようとすることができている。しかし、この時期の子どもたちは自己中心性が強く、他のことを優先してしまう気持ちや少しくらいならきまりを守らなくてもよいという安易な気持ちから、きまりを守ることをおろそかにしてしまうこともしばしばある。このような子どもたちが、一人一人がきまりを守って生活することの大切さについて考えることにより、周囲の人や自分が安心して過ごすために、自分勝手な行動をせずに、きまりを守って生活しようとする態度を養うことができる。

そこで、教材「くろぶたのしっぱい」を使用する。教材の内容及び価値は、次のとおりである。

主人公のくろぶたは、ごみを他人の家の近くや川の中に捨てようとするが、住人から注意を受ける。その後、広い牧場にごみを捨てようとするが、気付いた馬に止められる。「自分1人ぐらいならどこへ捨ててもよい」と主張する主人公に対して馬は反論を始める、という内容である。

「自分1人ぐらいならきまりを守らなくてもよい」と考える主人公の姿から、一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての問題意識を高めることができる。また、主人公がきまりを守ることが面倒であること、1人だけなら迷惑にならないことを主張の根拠にしていることから、主人公のように行動した場合と行動しなかった場合の周囲の人や自分の気持ちの違いに着目し、一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての理解を深めることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、2年「みんながつかう道」での、みんなが使う場所を大切にし、工夫して使うことのよさについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、1年「ルールをかんがえよう」において、みんなが使う場所でのきまりの大切さについて考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① みんなが使う場所には、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにきまりや約束があることを理解してきている。このような子どもたちが、周囲の人や自分が気持ちよく過ごすためには、一人一人がきまりを守って生活することが大切であることを理解できるように、一人一人がきまりを守って生活することの理由を問う学習課題を設定する。
- ② みんなが使う場所にあるきまりを守って生活することについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、一人一人がきまりを守って生活することについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えられるように、「1人だけならきまりを守らなくてよい」「みんなきまりを守らなければならない」への賛否の程度を表すメーターを用意する。
- ③ みんなが使う場所のきまりを守って生活しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、自分勝手な行動をせずに、きまりを守って生活しようとする態度を養えるように、本時の学習に関わって、「よい考えが見付かったか」「その考えはどんな時に役に立ちそうか」の振り返りの視点を提示し、その理由を記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 一人一人がきまりを守って生活することの理由について話し合うことを通して、周囲の人や自分が気持ちよく過ごせるように、自分勝手な行動をせずに、きまりを守って生活しようとする心情を養う。
- 2 準備 場面絵 メーター（掲示用） ネームマグネット 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題「みんながきまり	○本時のねらいとする道徳的価値への方向付けが

を守らなくてはならないのはなぜだろう」をつかむ。

- ・きまりを守る方がよいにきまっているよ。
- ・くろぶたさんは、自分1人くらいなら、きまりを守らないでゴミを捨ててよいと思っているのだね。
- ・きまりはみんなが守るものだけど、つい廊下を走ってしまうことがあるな。少しくらいよいと思っっているのかもしれないな。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・1人でもきまりを守らなかつたら、周りの人が嫌な気持ちになってしまうからだよ。
- ・きまりを守らないのは、自分だけならべないし、面倒くさいのは嫌だと思っているからだと思うな。
- ・自分は「みんなきまりを守らなければならない」の方に少し賛成かな。きまりを守るのは面倒な気持ちはあるけれど、きまりを守らない人がいたら周りの人が困るから、みんな守った方がよいと思うからだよ。
- ・友達のを聞いて、「みんなきまりを守らなければならない」じゃないとだめだと思ったからだよ。もしきまりを守らない人がいたら、守っている他の人たちが「ずるい」と思ってしまうって、きまりを守らなくなってしまうかもしれない。そうなったら誰もきまりを守らなくなつて、ごみだらけになってしまうかもしれないよ。
- ・きまりを1人でも守らない人がいると、その人はよいかもしれないけれど、周りの人は困るし、だんだん他の人も守らなくなつてしまうかもしれないよ。周りの人も自分も気持ちよく過ごせるように、みんながきまりを守ることが大切なのだね。

3 これからの自己の生き方への思いや課題について考える。

- ・これまででは、面倒だなという気持ちがあったけれど、みんなも自分も困らないようにきまりを守っていききたいな。

できるように、きまりを守ることの是非を問いかける。

- 教材「くろぶたのしっばい」の内容を把握できるように、教材を範読した後に、登場人物の台詞や行為を整理して板書する。
- 一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての問題意識を高められるように、主人公の主張についての感想や疑問を発表するよう促す。
- 学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、考えを発表するよう促す。
- 自分勝手な理由できまりを守らない人間の弱さに目を向けられるように、主人公のようにきまりを守ろうとしない理由を問いかける。
- 一人一人がきまりを守って生活することについて多面的・多角的に考えられるように、「1人だけならきまりを守らなくてよい」「みんなきまりを守らなければならない」への賛否の程度を、掲示したメーター上にネームマグネットを用いて示すよう促す。
- 一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての理解を深められるように、話し合う中でメーターの位置を変化させた子どもを意図的に指名し、変えた理由を問いかける。
- 一人一人がきまりを守って生活することの大切さを理解できるように、学習課題に対する考えを再度問いかける。

評価の視点

一人一人がきまりを守って生活することの大切さについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント>

- よりよい自己の生き方を実現しようとする思いを明確にできるように、振り返りの視点を提示し、理由を学習プリントに記述するよう促す。
- これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	一人一人がきまりを守って生活することの理由について話し合うことを通して、周囲の人も自分自身も気持ちよく過ごせるように、自分勝手な行動をせずに、きまりを守って生活しようとする心情を養う。	
教材	くろぶたのしっばい	
主題 構成	導入では、主人公が、「自分1人ぐらいならきまりを守らなくてもよい」と主張していることについての感想や疑問を話し合うことで、子どもたちは一人一人がきまりを守って生活することの大切さについての問題意識を高めることができる。展開では、主人公のように、「1人だけならきまりを守らなくてよい」場合と「みんなきまりを守らなければならない」場合の周囲の人や自分の気持ちを対比しながら話し合うことで、一人一人がきまりを守って生活することの大切さに気付くことができる。	
過程	学習活動	評価の視点<評価方法>
導入	○教材を読み，学習課題「みんながきまりを守らなくてはならないのはなぜだろう」をつかむ。	
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。	◇一人一人がきまりを守って生活することの大切さについて，多面的・多角的に考えたことや，自分との関わりで考えたことを，発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント>
終末	○これからの自己の生き方への思いや課題について考える。	
他の 教育 活動 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で，きまりを守って生活する場面 例：廊下を歩く場面 休み時間を時間を守って過ごす場面 トイレのサンダルを使った後にそろえる場面 使った物を元の場所に片付ける場面 給食のきまりを守って配膳したり片付けをしたりする場面 授業中に出たごみをごみ箱に捨てる場面 	